日立市立諏訪小学校

Ⅰ　実践

１　研究主題

思いやりの心をもち，互いを認め，助け合う行動がとれる児童の育成

（１）主題設定の理由

本校では，昨年度まで他を思いやり，夢や希望をもって生きる児童の育成を目指して道徳教育を中心とした研究を行ってきた。その結果，思いやりの心はずいぶん育ってきている。そこで今年度は，今まで培ってきた心を実際の行動として表現することを大切にし，今まで以上に互いの人権を尊重しあい，助け合う人間関係を築いていける児童を育てることを目指し，本主題を設定した。

（２）研究の内容

①　道徳の時間や特別活動，総合的な学習の時間における人権教育の充実

②　体験・交流活動ができる場の設定

③　話す・聞く力を育む指導の充実

２　実践内容

（１）道徳の時間の取組

ア　道徳の時間の充実

場面絵や発問の工夫，ＧＴの活用に加え，めざす児童像に向けて，他教科や地域との関連も図った道徳の授業を行ってきた。自分の内面を見つめ考えを深められるようにするために，話し合いの時間を意識的に設け，さらに実践力を高めていこうとしたものである。また，どの学級も年に１度は道徳の授業を保護者に公開し，家庭でも道徳的な内容について話し合えるようにした。

イ　心の伝言板の設置

他者とのかかわりの中で，心に響いたことや心温まったことをカードに書き，みんなに紹介できる掲示コーナーを設置した。多くの感動体験を共感をもって読み，互いの思いを理解する場の一つとした。

（２）総合的な学習の時間における体験的な活動

ア　福祉体験活動（第５学年）

人権尊重の教育に関わる内容を体験的に学ぶことによって，人権意識を高めたいと考え，車イスやアイマスク体験，高齢者の疑似体験などの活動を行った。障害をもつ人や高齢者の日常生活の大変さを知り，社会的弱者や困っている人にどのような手助けができるかを学び，考えることができた。

イ　敬老会への参加

毎年行われている諏訪地区敬老会に，演芸の部での発表ばかりでなく，運営スタッフとしても参加した。会場の案内をしたりお茶を出したりして，お年寄りとの交流をもった。実践する中で，人の気持ちを思いやって行動するとはどういうことなのかを少しずつ理解し，工夫をしながら活動することができた。また，お年寄りに渡す励ましの手紙については，３年生以上の全児童で取り組み，児童によっては，手紙を渡した相手から返事をもらうことができ，心を温めることとなった。

（３）人権に関する学習

３・４・５・６年では，人権教育指導資料（第３０集：県教委）より，学級の実態に合わせて内容をピックアップして実践を試みた。

ア　第３学年の実践「楽しい学級（学校）にしよう」

人との関わりについての＜気付き＞＜学び＞の内容については，１時間の学活の時間をとって実践し，そのまとめとして『人権メッセージ』を書いた。朝の時間の活動として，学活で記入したワークシートを見ながら，『自分も友達も楽しい生活を送るためにはこれからどうしていったらよいか，どうしたら自分の心もみんなの心もあたたかくなるか』友達に伝えたいことをメッセージとしてカードに書いた。一人一人自分なりの考えをきちんと書くことができていた。その後，気付き学んだことの実践として，誕生集会の計画や読書への呼びかけ，がんばりを認めるカード作成や長縄跳びへの誘いなど，楽しい学級生活をつくっていくためにやってみようと，次々と積極的に活動する姿が見られた。

（４）その他の活動

ア　縦割り集団活動（児童会）

全校を縦割りグループに分け，年間を通して様々な集団活動に取り組むことによって，異年齢児童相互の親睦を深めたり，他者への思いやりの心を養ったりすることを目指した。

＜　１年生を迎える会　＞
入学してきた１年生が早く学校生活に慣れるよう，６年生を中心としてゲームなどを行い，交流を深めた。
＜　ロング昼休みの活動　＞
毎週水曜日は昼休みを 40 分とってあり，学級ごとのレクリエーションの他，各学期に１度，縦割り集団による遊びや読み聞かせを実施した。高学年がリーダーシップをとり，事前に話し合いをして当日の準備や進行を行った。大変楽しい活動となっている。
＜　クリーン活動　＞
学期に１回，校舎の周りや校外へ出て，ゴミ拾いなどを行った。上級生がよく面倒を見ながら，しっかりと清掃活動を行っていた。

イ　異学年交流
６年生は，１年生が入学しての４・５月を中心に，１年生の教室を訪ね，朝の時間に読み聞かせをしたり，休み時間に鬼ごっこや長縄で遊んだりするなど，積極的に１年生と関わり，楽しい学校生活を支えていた。２・５年生と３・４年生は体力テストの時に一緒に活動し，上級生が下級生の面倒を見た。それをきっかけに積極的に関わるようになり,休み時間に一緒に遊ぶ姿がたくさん見られるようになった。

ウ　朝の会・帰りの会での取組（全学年・全学級）
学校生活における人権教育は，朝から始まって帰りまで，すべての活動にかかわっているものである。そこで，一日のスタートとゴールである朝の会・帰りの会でのスピーチ（児童）や説話（教師）を中心として，互いを認め合おうとする意識が高まるように努めた。

エ　伝え合う力を付ける取組（全学年・全学級）
国語の授業を中心に，話す・聞く力を高める活動を丁寧に取り上げ，自分の思いをきちんと伝えようとする意思と伝えることのできる力，友達の思いをしっかり受け止めようとする意識と聴き取る力の向上を図ってきた。

オ　集団登下校を通して（全児童）
本校の特色の一つでもある「集団登下校」では，高学年が班長・副班長として列の先頭と最後尾について，下級生の歩調に合わせながら安全に登下校している。保護者と地域の方の協力をいただきながら，毎日元気よく行っている。

３　成果
道徳の授業を充実させたことで自分の内面と触れあい，考えを深めることができた。心の伝言板コーナーは，友達と他者との関わりに目を向け，互いの良さを認め合える場となった。様々な福祉体験活動により，助け合うことの大切さを感じることができた。異学年の児童が交流する縦割り班活動では，高学年の児童が上級生としての自覚をもって，下級生の面倒を見ながら中心となって活動する様子が見られた。
また，人権教育指導資料を基にした学級活動の実践では，児童の互いを思いやる意識の向上が着実に見られた。国語の授業を中心とした話す聞く指導の工夫によっても，伝え合う意識の向上が見られ始めている。

Ⅱ　今後の課題
１　高齢者や障害をもつ人など，自分たち健常者とは異なる立場の人々に対しては思いやりの心をもって接することができるが，身近な友人や地域の人々に対しても同じ態度で接していけるようにしたい。
２　教職員や家庭，地域社会が，人権に対する意識を高められるような啓発活動を工夫していくことが必要である。学校と家庭，地域社会が協力・連携しあい，地域全体でよりよい人権尊重の教育を展開していきたい。
３　道徳・特別活動・各教科など，教育活動全体を通して人権教育を推進していくように努め，道徳的実践力がさらに高まるよう，一人一人を大切にした指導を行っていきたい。

Ⅲ　人権コーナー設置の様子
本年度も人権メッセージに全校児童で取り組み人権コーナーに各クラス代表のメッセージを掲示した。近くに道徳便りも掲示してあり，その内容は人権に関わるものも多い。ＪＲＣ委員会では朝のあいさつ運動を積極的に行っており，その様子も伝えていけるような学校全体の活動をとらえた人権コーナーを目指していきたいと考えている。